

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長名
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第3号を発表したので送付します。

平成30年度病害虫発生予察特殊報第3号

- 1 病 害 虫 名 : スイゼンジンすす斑症 (または、すす斑病(仮称))
- 2 病 原 菌 : *Zasmidium* sp.
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島
- 4 発 生 作 物 : スイゼンジン(通称:ハンダマ)

5 発生確認及び発生状況

平成29年8月、沖縄県南風原町及び沖縄市の施設栽培されたスイゼンジンにおいて、葉表が黄化し、葉裏ではすす状のかびを生じる症状が確認された。那覇植物防疫事務所及び沖縄県農業研究センターによる同定の結果、*Zasmidium*属菌による病害であることが明らかとなった。これまでに、国内での本属菌による農作物被害の報告はない。

6 病徴

葉表が黄化(図1)し、周囲に褐変枯死斑を伴うことがある。葉裏では退色化を伴うすす状のかび(図2)を生じる。主に下葉に発生(図3)し、後に中位葉へと被害が広がる。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

- (1) 罹病葉の菌体を実体顕微鏡及び光学顕微鏡で検鏡すると、葉裏の気孔から、1~20本の単生または叢生したオリーブ褐色の分生子柄(32-82×2.5-3.5 μm)が観察できる(図4、5)。分生子(15-55×2.5-3.5 μm)は無色~淡オリーブ色で、倒棍棒状、円筒状~長円筒状、もしくは糸状である(図6)。
- (2) 病原菌は、罹病植物体およびその残さが伝染源となり、分生子により空気伝染する。

8 防除対策

- (1) 早期発見に努めるとともに、症状を確認した場合には罹病株は速やかに取り除き、ほ場内で土中深く埋設するなど適切に処分する。
- (2) 発病は多湿条件で助長されるため、透光・通風・排水を良くし、密植を避ける。特に施設栽培では、湿度の管理に注意する。
- (3) 栽培終了後は、ほ場内に罹病残さを残さない。



図1. 葉表の黄化症状



図2. 葉裏に発生したすす状のかび



図3. 下葉から発病した罹病株

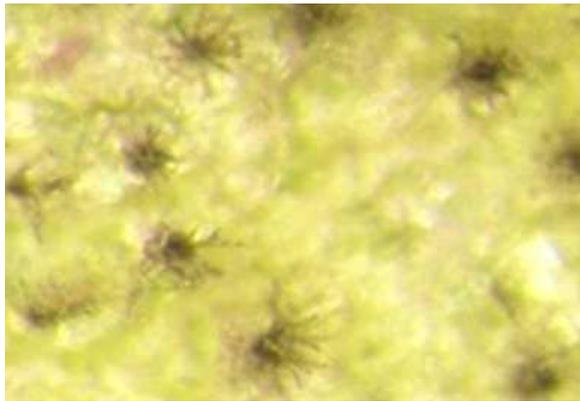


図4. 罹病葉(裏面)上の菌体(実体顕微鏡)



図5. 叢生した分生子柄



図6. 円筒状の分生子



図7. 倒棍棒状の分生子

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html>